183

特251
804

333
19

駐屯軍司令官
興業協會顧問
陸軍中將 鈴木一馬述

新興の支那と日本

支那事情研究會

始

特251
804

新興の支那と日本

目次

第一　新しき支那と日本
第二　日華親善に關し
第三　日華兩國の共存共榮を論して兩國の人士に望む
第四　日華親善の實行手段　（終り）
附錄　最近支那時局經過の概要

昭和五年七月
帝國圖書館藏

第一　新しき支那と日本

鈴木一馬述

私は先年陸軍の永の勤めから御暇を頂戴しまして、爾來、從來の經歷中の殆ど最後の勤務により日支の極く親近をせねばならんと云ふ事を感じましたから、何とか此殘骸を提げて少しでも御役に立つことが出來たらばといふので、やめましてから直ちに支那に直感的なる阪神地方に參りました、尙ほ其の後中華民國の執政をして居りました、段祺瑞氏の顧問を承りまして、支那に行つたり或は阪神地方に居りましたり、或は東京に居りまして、又は各地を歩きまして日支の親善について努力して居る一人であります。

さて此支那といふ國はどうして日本に必要かといふことは今更私が說明する迄もない。今日日本人が人口の增加と共に段々衣食住に不足を生じて來る、從て隣邦支那と親和して其供給を受ける事が必要になつて來たのである事は夫の千九百二十一年に於ける華府會議に於て加藤全

權の聲名がよく此間の消息を物語るものと云はねばならぬ。即ち曰く「吾人は支那の如何なる部分に於ても領土的擴張政策を採るものでない。吾人は無條件無留保で支那に於ける門戸開放機會均等主義を遵奉する吾人は、我が國の產業的生命を維持する爲必要缺くべからざる食糧品の供給を支那に仰ぐものである。此等の物資を購入するに當り他の一般貿易に於けると同樣之に對し何等の特權を求めない吾人は、列國の公正なる競爭を歡迎する」と試に今少し棚卸をして見ますれば大に心細くなりますが着物にしても食物にしても住宅建築用の材木にしても鐵にしても、國内に於て之を充すものはなくなりまして、皆悉く外國から之が補給を仰がなければならぬ樣になつて水產物と絹布類の外は殆んど自給自足のできるものはなくなりましたがこれは獨り我國の經濟上關係するばかりでなく我國の國防に關するのであります。凡そ一國が國防計畫を立てまするには、最も不利の場合を土臺として計畫するに非れば安全でありません。即ち其の最も不利なる場合を想定しますると、夫の千九百十四年以來五ヶ年に亘つて世界の大戰のあつた時に獨逸が世界に孤立したやうな場合が來た時に於て、尙ほ日本が自分の國威を振ふ事が出來るかといふことが一番不利な場合であります。即ち世界に於て日本が孤立した場合といふ事を考へなければならぬ、此の孤立した場合に於て考へて見まするこ、我國は綿をいづれから持つてきますか、我國が孤立した場合にはアメリカからも綿は來ない印度からもエジプトからも來ない、鐵筋コンクリートの鐵材も我が、國產丈では足りないがイギリスから持つて來ようと思つても持つて來る事も出來なければドイツからもアメリカからも來ない。及其の他主食物についても御承知の如く、今日は三四百萬石の米をラングーン或はサイゴンあたりから持つて來て居るけれども之も來なくなる、其の時は何と申しましてもお隣の支那から持つて來る方法を考へなければならぬ。日本が孤立した場合に於ても尙今日は大陸が考慮の中に入れられるのでありますから、對島海峽さへしつかり護つて大陸との聯絡を遮斷されないやうにすると此の大陸から物資の供給が出來る、どうしてもこれから持つて來なければいけません、但し目下支那國こいふのは數十年來防穀令があつて穀物を他所へ出さん事になつて居るからして、今日は穀物を賣る事は出來ない、けれども一旦防穀令が撤廢せられたならば、彼の國に於ても澤山の穀物を農民が作りませう。のみならず愈々いかんといふ場合には、現在此の廣い所に澤山ある所の各種の穀物を所有する手段を盡して日本へ取寄せることも不可能でない。と思ふので

あります。

而してその衣食住とも隣の國には何でもある。先づ今日私の知れる範圍に於ては無いものは護謨位でせう。今日世界の經濟學者の說では、私の讀んだ本や何かによつて知れる範圍に於ては、アメリカ合衆國が最も富んだ國である。其の富の高は七千六百億である。イギリスは二千三百億の富を有つて居る。我が日本は一千二十五億の富を有つて居るといふ風に計算して居つたものを見たのであります。併し支那の富だけは何程あるか、誰も經濟學者で計算し出した者はありません。蓋し文明的に未だ開發せられて居らんからであります。其領土はさつと勘定して我國の二十六倍半あると申します。我國は北緯五十度から赤道以南に至る長い國でありますけれども面積は洵に狹い、隨つてすべての農作物は少い。支那は御承知の通り西方は山は隨分少くない所でありますけれども、平漢線以東は殆ど山が無い、私が實際旅行して知つて居るのは、大連から奉天を經て天津を過ぎ、濟南を通つてそれから楊子江の沿岸より上海に至る間トンネルと云ふ程のものを一つも見ません、洵にどうも廣いものです。平らな所が多い從つてこゝでは農產物は隨分澤山とれる。今日綿の如きも作づけが年々に殖えて居ります。又現に吾々

の始終食膳に上る所の豆腐にしろ、味噌にしろ醬油にしろ、みんなあれに使用する所の豆は多くは滿洲から來て居るのであります。日本內地に於いて取られる所の豆なんといふものは畔豆といつて極く僅かしか無い、皆んな多くは滿州の豆です。鹽にした所でそうです。今や世の中が進步して。化學工業が非常に發達した其の化學工業の原料として最も必要な工業鹽は我國に豐富には出來ません。夫の尾道の鹽田、松永の鹽田、福川の鹽田、三田尻の鹽田又四國に行くと坂出の鹽田、色々ありますけれどもあんな所で出來るものゝみを以て內地人の需要を滿して居るのでない。今日我が八千萬國民の食べて居る所の約半分といふものは、我が國が往年血を流して露西亞より讓り受けた所の關東州に於て生產する所の鹽と。更に以前に遡つて日清戰爭に於て先輩が血を流して貰つた所の臺灣に於て生產する鹽、並に青島附近に於て生產する鹽を專賣局が買つて、そうして日本八千萬國民に鹽を甜めさせて居るのであります。數年前まで二三ケ年の間、鹽の輸出稅の協定が日本と支那との間に出來ません間は遠くヨーロッパ及エジプトから每年二十萬噸づゝの鹽を輸入して居つた事がありました。かう考へて來るというと我國は實に物資の少き國であるが、隣りの國には何でもある、青島に於ても鹽の山をなして居る、天

津に行けば塘沽附近に於ては、何十何百といふ鹽の山をなして居る。其の他蒙古の方へ這入つてしまへば山鹽が澤山ある。

更に燃料問題についても、或國に於ては先年商工大臣が非常に心配して將來の燃料政策を樹てなければいかん、我國は工業立國の策を取らなければならぬ、といつた。成る程御尤もな事でさうでなければなりますまい。さて工業に要する所の動力を作るにはどうするか、水力電氣が澤山あるからよいやうだけれども、此の水力電氣には限りがある。學者の說によれば我國の水力電氣の總量は今迄の調にては約一千萬馬力を算するが、實際使用し得るのは其の五分の三が最大限であらふと故に、將來我が國の水力電氣のみによつてやらんと欲すれば、馬關海峽、音戸の瀨戸といふやうな所の潮流まで應用しなければならぬ時代は來んか。火力電氣を起すには燃料が要る。石油は少い、石炭かどれだけあるか。今後三十年か四十年で、筑豐炭田、常磐炭田、北海炭田、樺太炭田等全部漁つて見ても五十年と無い。而して我國燃料の消費高はどれ位であるか、今日學者の計算によると當今に於て約四千萬噸と計算せられてあるが將來工業立國の策を取るべき我國は益々動力の增加と共に燃料を要する、これがために要する石炭は餘り

遠き將來でなく五千萬噸に達するだらう。其の五千萬噸の供給を今後五十年後に於ていづれから求めるか。私は始終大阪で話をしますが、大阪北區の雀の羽が黑いと申します、其の間は結構だ今に雀の羽が白らうなつたら大變ぢや無いか、かういつて居りますが、實際前途を考へると頗る心細い限りであります。

而して此の大陸に於てはどうか、我が勢力範圍にある所の南滿洲に於て撫顺の炭坑の如き、其埋藏量は約十億噸であつて毎年一千萬噸づゝ掘るとすると百年はある。それから西北に進み熱河方面に行くと新邱の炭鑛があるが之は前者同樣十億噸からの埋藏量がある。更に南方へ行つて直隸省に入るとイギリスの資本によつて經營されて居る開滦炭坑、或は山東省の淄川炭鑛坊士炭鑛、中興炭坑、成は更に西に進みますと、朝鮮と略々同じ位の大きさの山西省といふのがあります、其の廣い山西省の約半分は無煙炭を以て埋まつて居る、之は何千年掘つてもある私は山西省の大原迄行つて見ましたが、なか〳〵豐富なる石炭が埋まつて居るやうに見聞しました。尙以上の外各種鑛物並に各種工業原料等が豐富にあると思はれます。さういふ所が我が隣りにあるのです、

我國は洵に貧弱なる國で天惠に惠まれて居らんけれども併し幸ひにして隣國にかくの如き色んな、燃料にした所で、鹽にした所で、或は護謨は無いにしても綿にしても何でも出來ないものは無い、かういふ所が隣りにあるといふ事は切めてもの我國に對しての天惠であります。殊に最も近い、長崎から船に乘りさへすれば翌日に彼方へ着く。長崎地方の人で餘り地理の知識のない人々は長崎縣上海だと思つて居る。よく上海へ娘が仲居か何かで行く。其親が長崎縣上海といつて手紙をやつたといふ笑ひ話がある。其の位近い所にさういふ豊富なる邦土があるといふ事は我國にとつては非常に幸せといはなければならぬ、尙且つ此國には人口としては四億三千萬以上と概算されて居ります。四億といふと世界の人口の約四分の一であるが。原料はあるし夫を日本に取寄せて加工したものを更に彼の地に送り之を使ふ所の人間が四億三千萬以上あるといふ事は結構な事であります。かくの如き市場は外に無い、かるが故に曩に米國に於て開催せられたる千九百二十一年のワシントン會議でありますが、以上述べた事が其の原因の一つになつたと云ふ事を一寸お話しまするとと、私は當時天津に居つてアメリカの司令官以下幕僚其の他アメリカの總領事あたりと色々交際場裡に於て馬鹿話をし乍ら色々さぐつた結果により

ますと、ワシントン會議の極東會議の原因は、世界大戰に於てアメリカに澤山の製造工業が發達した、從つて製造工場が非常に澤山出來た、其の製造工場を戰の終りと同時に閉鎖しなければならんのが甚だ苦痛である。之を鎖閉すれば經濟上大打擊を受けねばならぬ、そこで此の諸工場の閉鎖をしないやうに皆利用するために東洋殊に支那に送る所の雜貨を拵へたい、それには本國に於て出來た所の製品を支那人に賣附ける事をたやすくしなければならぬ之が爲には支那人の御機嫌を取らなければならぬ。支那人と仲好しにならなければならぬ。それに就ては支那に對して好意的態度をとらなければならぬ。此の故にワシントン會議に於て極東會議といふものを特に設けて、支那に對して好意的の態度を示さうではないかといふのが、ワシントン會議の一つの目的であつたといふ事を聞き及んで、如何に其の理想の雄大であるか、反對に當時我國に於てはどうであつたか、千九百十四年以來五ヶ年の戰爭中未だ嘗て無い所の好景氣が飛んで來た。蓋し我國が交戰國に參加して居乍ら何ら戰爭の慘禍を受くる事なく、たゞに海軍の一部が地中海に行つたのと青島の戰があつたのと直接我本國に對して何等の慘禍を受ける事は無かつたのでありますからして、我國の製造工業は非常に盛んになつて常に入超國として債務

ばかり負うて居た我國が五ケ年丈は全く出超國となり債權國となり得たのであります。所が其の間に於ける我國商工業者の心得はどうであつたか、又當時に於ける我が當局の遣方はどんな風であつたか、千載一遇の我が日本の商工業の發達に對して、殊に我が日本製品の販路擴張、我國製品の廣告に最もよい機會を天から與へられたに拘らず、我國は粗製濫造品のみを澤山拵へてとう〳〵戰後は全く日本の貿易を蹉跌せしめるやうになりました、彼と此とを比べて見ると實に天地霄壤の差がある譯であります。夫の米國が支那に對してさういふ風な頭を以て對したといふことは何かといふと、何の事はない、支那が四億三千五百萬人の人口を有つて居るからであります。此の大なる市場が我が國と一葦帶水を隔てた所の近い所にあるといふ事は之れ亦洵に吾々の願つてもない所の幸せとしなければならぬ。

かういふ狀態でありますから、從つて我國はどうしても國防上或は經濟上からいつて、此のお隣りの御得意には是非親近しなければならぬ、我國を富ます上に非常に必要な所の御得意であるのみならず國防上非常に必要な國であります。

かういふ國であるにも拘らず此の國民に對する所の我が國民の感情如何を見ますれば實に寒心に堪えん所の狀態にあるのです。蓋し日清戰爭以來一時國民の士氣を鼓舞する爲めに唱へられた所の此の國民に對する惡罵聲は爾來殆んど支那人は吾々と同等の者で無いかの如く考へられて今日に至る迄此頭といふものは婦女子に至る迄もこびりついて居るといふのは洵に寒心に堪えない。先年起りたる、長江沿岸に於ける所の漢口事件、或は南京事件の如き或は九江事件の如き、之を單純に見れば何でもないやうであるけれども、過去八十年來、即ち彼の阿片戰爭以來、列國が支那民族に對して加へた所の壓迫といふもの〻爆發に外ならんのであります。彼等に對して不平等なる所の取扱ひをなし、彼等を奴隷視して馬鹿にして居た所の報ひが今日來たものと思はなければならない。就中八十年來長江沿岸に於て勢力を振うた所の、しかも最近十數年前迄殆ど獨占的に楊子江沿岸に於ける商權を獲得して居つた所のイギリスの如き、ひどい目に遇つたのは蓋し因果應報と謂はなければならんと思ふのであります。隨分支那民族に對して壓迫を加へて來たといふ事は爭ふべからざる事實でありますが、此事は獨り日本人が彼等に對して侮蔑的態度を以て來たばかりでなく歐米各國人もやはり支那といふものは澤山の物資がある、或は澤山の需用者がある、よい國であると思ふけれども其の民族に對してはどうもや

はり列國が馬鹿にして來たといふことは爭ふべからざることであるのは、

夫の千九百二十一年ワシントン會議で極東會議の際、フランス國最近の首相ブリアン氏は當時ワシントン會議の委員として行つて居りましたが、それが述べた一言によつて當時及最近迄いかに支那民族に對して馬鹿にして居つたかといふ事が立派に證據立てらるゝのであります。即ち極東會議の席に於て、曩に北京に於て國務總理兼外交總長をして居つた所の顧維釣、（ウエリントン・クー）といふ外國人の名をとつて居る委員が出て居る所で、ブリアン氏は（ホワツト・イズ・チヤイナ）といふやうな失禮な言葉を以て向ひました。即ち「支那とは何ぞや」洵に失敬な言葉であります。之に對して「ウエリントンクー」即ち顧維釣氏は「支那とは中華民國の憲法の制定する領土を謂ふ」と答へました。却々此の顧維釣といふ人も負けては居ない、氏はアメリカ育ちの博士であります。そこで當時座長になつた所のルート氏は、こゝは支那の憲法會議ぢやありませんからおよしなさいと云つて水を入れました。洵に其のホワツト・イヅ・チヤイナと云ふ一言たるや人の國を馬鹿にした言葉であります。かくの如く列國が皆支那といふものを馬鹿にして居つた結果が今日の爆發を來したといふ事は否む事は出來ません。因果應報であります。のみならず、支那に於て新しい思想が段々新讀書人によつて普及せられ、色んな思想が入り込んで來て、勞資問題の如き、或はマルキンズムの如き、或はボルセヴイズムの如き色んな思想が這入つて居る。これに對する列國の研究の粗雜なりし關係から最近の爆發が起つたと思ふ方が早い。我國の如きは最も近い國である割合に支那に對する研究が粗雜であつて頗る危險なる狀態にあつたといふ事を申述べたいのであります。

特に我國に留學する所の數千の留學生に對する所の我國の取扱ひ方が非常に惡いために殊に東京に於ける神田本郷早稲田あたりの下宿屋のねえさん等から馬鹿にされるために彼等は歸國するや殆ど排日になつて居ります。排日でないのは大抵我國の士官學校に入學したもの位である外は殆ど排日の方に加はつて居ります。もと〳〵向ふから來る學生はちやんと選拔されて來て居る、有爲な青年が日本へ來て下宿屋のねえさん或は其の人の居る所の子供等に馬鹿にされて「何んだチヤン〳〵坊子」がといはれると如何にしても憤慨せざるを得ません。「今に見て居れ、俺れは仇打ちをしてやる」そんな頭を持つて國へ歸るからみんな排日になつてしまふ。かういふ惡い所の時代後れの遣方は絶對に改正しなければ日支親善といふものは出來ない、試

に歐米に留學したものはどうかと比較して見るに皆其國に親しむ樣になりますが我國の留學生はそうでない。日支親善はたゞ口頭禪に終らずして實行しなければいかん、實行するためには是非かういふ精神的素因を除去せなければならんといふことになるのであります。

私は此の事をどこへ行つても申上げねばすまんのでありますが、かくの如き狀態であつて支那の人を馬鹿にする所の風は我が國の津々浦々いづれに至つてもあるのであります。蓋し我が國民の頭には日清戰爭に負けた所の支那人は弱い奴だきたない奴である、又こゝら近邊に絹紬を賣りに來る阿呆見たやうな顏をして居るのを見て、あゝいふのばかり四億三千五百萬居ると思つて居るのは大變な誤まり。凡そ一國の中堅をなす所の人物は中流以上の人々であるが、私の見る處では支那の中流以上の人物と我が中流以上の人物と比較して決して甲乙はないと思ふ、其常識の發達程度の如きは支那人士の方が我が人士より優るとも劣るものではないと私は斷言したいのである。以上の如くであるに拘らず我が國民より大に劣等なるものゝみの樣に心得て居るのは眞に見當違ひであるが、之は普通の人だけでない私が驚いたのは先年大正十二年の暮に天津より本國に轉任をして歸りました當時あちらで私が交際して居りました所の即ち大總統以下朝野の名士連中と交換しました所の寫眞を我が大官連や有力なる實業家の人々に見せました。すると皆曰く「之は皆氣の利いた顏をしているなア」驚かざるを得ない。大總統をしたり、外交總長をしたり或は陸軍總長をしたりして居る人の寫眞に對しての評がそれです。之は皆氣の利いた顏をして居るといふ反面に、支那人といふ者は皆阿呆ばかりだといふ觀念がある、まことにどうも私は驚いた、我國の上流に位する人がかういふ頭を有つて居ては迚も日支の親善等は百年河清を待つ如きものであります。私は其の都度言下に「さういふ事を云はれる皆さんに私の申上げたいのは、只今此の寫眞を皆樣が御覽になつて異口同音に、之はみんな氣の利いた顏をして居るな、と仰しやつた、其の裏面に支那人といふものはみんな馬鹿みたやうな顏をして居るものゝやうに心得て居らつしやるやうだ、そんなやうな事では迚もあなた方が幾ら日支親善を唱へられても駄目だ、根本の頭の置き所が違ふ、今日以後どうか御改正を願ひたい、」かう云つた所が、皆目覺めて「成程さうぢやつた」といつて笑つたのでありますが、無論不用意に言葉を發せられたのでせう、併し不用意な言葉を發せられるだけそれだけ頭に馬鹿にして居るといふ事になる由來支那の國民は一般に事大主義であるけれども我國の國民も頭が高い、

手前程偉い國民は世界にないと心得て居る者が多い。自尊心の高いのは宜しい、併し他と正當に比較しての事でなければいかない、大和魂は日本人の專有物、專賣特許のやうに思つて居る。馮んぞ知らん、ヨーロッパの大戰に於て獨逸魂も發揮され、イギリス魂も發揮されフランス魂もイタリー魂も發揮された大和魂に敢て遜色のないといふ事を御承知ない方が段々ある或は支那に於て過去八十年來列國から非常に壓迫を受けて來た關係から自然に愛國心なんといふものは無かつた國民に今や愛國心といふものが芽さして來たといふ事を御承知ない人が多い。從つて今より數十年前の舊い支那觀を今日の新しい支那に對して同じやうに適用して居る人の少くないことは頗る危險であります。序に聞いて貰ひたい話があるのは、先年某要人が某外人に向つて次の樣な事を云ふたことがある、即ち曰く列國人は我が民國を輕蔑するがよく世界の歷史を讀んで見るがよい、世界に五十何個國と云ふ國があるけれども幾千年來兎も角獨立を繼續して今日迄來て居る國は日本と我が民國の外にあるまい而して我民國は古代の埃及の文明も「メソポタミヤ」の文明も見て居るし又埃及や「アッシリヤ」「バビロニヤ」の滅亡も東「ローマ」帝國の滅亡も見て來て居るのである委しく云ふならば世界各國の興亡の歷史を盡く皆見て來て居るのである。加之我領土は廣く物資は豐富で人間は勤勉質素でしかも其人口は世界の四分の一もあるのである斯の如くにしていかで隆昌になり得ない理由が無いではないかと大に意氣を昂けて話したと云ふ事であるが味ふべき話であると思ふのである。其他亦某支那人は日本人をどんな風に評して居るかといふ事を聊か御參考迄に申上げて見たいそれには支那人の云つた事を御知らせしたいと思ひます。之は或は何かによつて御承知のことかも知りません。之は南滿洲鐵道株式會社地方課が參考として我國の各方面に送つて呉れた所のものであります。即ち我が租借地である關東洲大連に住まつて居る所の支那人が云つた事であります。

「憐むべき國家と憐むべき國民」「憐むべき國は我が民國である、憐むべき國民は卿等日本人である。卿等は二口目には支那といふ國は實に可愛想な國である。統一する所なく內亂の絕間なく、百姓は一日として堵に安んずることは出來ない、全く塗炭の苦である。常に東洋の禍根をなして居る。此の國程救濟し難い國は先づあるまい、結る所は我が日本の厄介になるより外はない、なぞと親分顏をして太言壯語して居るが、私は其の度每に片腹痛く感ずるのである。實に噴飯に堪えない。卿等は輕薄なる皮相の觀察を以て如何にも洞察し盡したやう

な言を吐く事を好むから世界の至る處で排斥の聲を聞くやうになるのである。よく〳〵心を落着けて私の所見を聞くがよい。萬一愚見に誤があつたならば私の全財産を差上げても宜しい。」

といふ事を前提して次のやうな事を云つて居ります。

「日本の金持ち支那の金持」――私は此の大連に二十幾年間厄介になつて居るもので先づ有産階級の民國人であると自稱してもよいと信ずる。私の財産は確かに金五十萬位ある。之は日本人の稱するやうな借金交りの五十萬圓で無い。私は此の財産を如何にして作つたかといふと日本人にいはしむれば或は苦心慘憺したといふかも知れんが、吾々支那人にとつて何にも苦心は要しなかつたのである。自然に蓄積したのである。實際に於て日本人が苦心といふ仕事は吾々には平常の仕事である。これに就て私が敷衍して置きますが、實際支那人は勤勉です。

「私の財産も今に百萬二百萬と增加するのである。」

かうちやんと決めて居ります。

「私等の仲間には三百萬、五百萬、一千萬といふ財産家は少くないが表面彼等の生活振振りは

日本人の百圓の月給取り程の顏もして居らんのである。」

私は天津或は廣東、香港又は大連奉天に於ける居留民諸君と交際して見て、或は會つて見て其の風を見て知つて居りますが、之は全く本當だと思ひます。私は天津だけでも千萬圓以上の財産家を七人程知つて居りましたが、其の七人の支那人がやはり下の方には我國の職工の着るやうな菜葉服の木綿を着て、吾々の所へ來る時には上衣だけ絹を着て來ますけれど其の他皆菜葉服のやうな木綿を着て居ります。所が我國の彼方へ行つて居る所の會社の役人とか社員だとか云ふ人になると月給百圓も取つて居る人はえらい顏をして居ります。之をちやんと支那人は見て居る。

「吾々は外出の時はいつでも電車である馬車や人力車は大嫌ひで、自動車は第一蟲が好かん方である。」

之は一寸極端であります、今日では我國の如き自動車といふものはしやれ道具ではなくて實際必要品でありますが――尙進んで

「併しこれでも奉天に行く時は人力車か馬車に乘ることに定めて居るが、城内を一周りしても

僅かに二十錢ばかりで車夫はお禮を云ふて居るが。大連になれば六十錢呉れても却々承知せぬ。之は皆日本人の浮薄な生活の爲めに賃金を高くしたのである。洋服を着て人力車上に反りかへつて居る日本人の中には、挽いて居る車挽程金を持たんものがありはせんかと思はるゝ。」

この通りです、甚だ遺憾だけれども此の通りだ。

「私の國の車夫は其の日の儲けから幾何かづゝを必ず貯蓄する。百圓以上持つて居るものも少くない。先日日本の震災の時に彼等は其の中から五十錢宛寄附したのである。吾々は一體自動車に乘るものゝ心持を知るに苦む彼等は出來得る限り時間を經濟して速に金を費つて殘りの時間を利用して遊に使用しようとするのである。或は晝寢をし、或は料亭に登つて所持金を不足にし初めて一日の仕事が終つたとして滿足するらしい。之を大人と稱し、活動家、勢力家と尊敬するのである。而も其の反面に於て出すべき時に三十圓の所持金すらなく其の場を濁す者が多い。先般或る會社の會合の時各々五十五圓宛出金することゝなつたが民國人は五人が五人共即座に出金したが、日本人十幾人は後から持たせて寄越す、と云つた。」

どうも一段と背縢に當つて居る。

「而も其の歸りには皆自動車に乘つた、或は料理屋に行つたかも知らん。其の時吾々は皆歩いて電車の停留場まで行つて電車の中で大笑ひをしたのであるが、如何に考へて見ても日本人の此頃は上から下まで其の日暮しのようである。吾々には正氣の沙汰とは見えない。」

かういふ事をいつて居る。それから次に丁度之れを云ふたのは大正十三年の始めでしたから、

「震災の義捐金——次に今回の日本の震災に就てゞあるが其の後始末は直ぐ着くことでせう。損害が百億あらうとそれは限りある大問題では無い。それよりも大切なのは人心の荒廢を如何にすれば緊張させる事が出來るかである。」

かういふ事を支那人が云つて居るがやはり日本人はさういはれるやうになつて居る。

「最近日本人の生活が頗る上調子に流れて居ることは前述の如くであるが、今度の震災寄附金に就ても日本人の遺口には少々驚かされた。九月十六日の滿洲日々新聞を見ると、私等と平生同等の交際をして居る某々ですら三百圓五百圓とある、五十圓百圓中には十圓のものもある。私は一萬圓位出してよいと考へて居たが、私の友人共が千圓でよいといふから千圓でや

めて置いた。あの頃の新聞を注意して見ると、私の國人で五百圓千圓一萬圓と出したのもあつた、五百圓等は六十何人もあつた。然るに日本人は三圓五圓十圓の口ばかりではないか、而も皆堂々たる家を構へてゐて晝食に毎日數圓の洋食を喰ふ連中ではないか　自動車を有ち大きな家に住んで居て、立派な應接室なり書齋は有つて居るが、金庫には金の無い連中ばかりでないか。私等を見なさい一日食費六十錢もあれば家族三人が充分である。」

かういふやうな事をいはれて居る事を知らないで居るのであります。洵に遺憾な事であります。さうして自分一人でよい氣になつて居るといふ狀態のものが少くないと思ひますから、之は一般に日本國民の批評として御參考に供したのであります。

どうか今後支那人に對する所の取扱ひこいふ事に就ては充分一つ御掛念になつて從來のやうな惡風を脱しまするやうにせられたいと思ふのであります。之は獨り大人ばかりではない小國民の時代より充分徹底せしめたいと希ふのであります。

尙ほ商工業者諸君に、從來の支那人が日本人を排斥する所の一つの原因としてお話して置かなければならん事は、支那は決していつまでも吳下の阿蒙にあらず、年々歲々彼の國の總ての技術が進歩して來ますし又、總ての制度の改善もせられて來る、從つて總ての工業の進歩、產業の發達こいふ事は、實に其のスピードが速いやうに思ひます。從つて將來は我國の今日の工藝技術の程度をもつて行くならば、或は支那のこの四億三千五百萬の得意が減るとも增加しない事になりはせんかを惧れるのであります。其の證據には、既に我國からして支那に行く所の約四億の貿易品の中綿糸布が大部分を占めて居りますが、その綿糸布も最早今日では無論大糸の總てのものが彼方で出來まするし又今日は細糸の一部分ももう出來て居りますから、段々彼の地に於て支那人の手によつて出來るやうになつて居ります。已に昭和元年の如きは太糸五百俵ばかり反對に逆輸入したやうな惡例もあります。かういふやうな狀態で、一方私は上海或は山の中の山西の太原あたりの諸工場を見たり、或は彼の支那人の技術程度に就て若干の觀察をして見ましたが、支那人の腕の器用な點は決して我國の職工に餘り劣らんものも段々ある事を知りました。果して然らば今後幾年かの後產業の發達と共に段々國產奬勵といふ事が彼方にも出て來るに決つて居る。我國も先年國產奬勵をせねばならんといふ事を喧ましく云つた事がありますが、支那に於ても國產奬勵といふ事は時々刻々に、其の聲が高くなつて居る、產業の保

護といふ事に付ては有識者に於ては非常に懸念をせられて居るやうでありますから、段々外國品を壓迫して來る狀態に向ふものと思はなければならぬ。從つて我國の如きは餘程氣を付けて工藝の進歩を圖らなければ將來支那に對して、人間が澤山あるから、其の需要者が多いなんと云つて安心しては居られん、我國に出來る品物はもう向ふで出來るといふ事になるといふと、我國の貿易といふものは支那に對して餘り振はなくなる。詰り產業の勃興と共に國產奬勵が行はれる。國產奬勵と共に日貨排斥といふものが自然に行はれるといふ事は覺悟しなければならんが故に、之を維持する爲めには彌々我國工藝の進歩を圖らなければならんといふ事に歸着するのでありますから、今迄のやうに支那向といつて粗製濫造品を之に當てると云つたやうな時代は最早過ぎ去つてしまつて、今後は支那にも優等品を送らなければ四億三千五百萬の需要者に滿足を與へる事は出來ない。而も支那人は割合にハイカラであります。ハイカラになる所のスピードもまた早い。從つて今日どうかといふと一方には支那人は比較的生活が安定である、生活が安いからして勞銀が安い、であるからして彼の地に於て工業を起せば宜しい等といつた事は過去の夢に段々屬するやうになつて、物價の騰貴率も頗る其のスピードが早いから、將來支那に於て工業を營んでも十年か十五年のうちには殆ど我國と同じレベルに達するものと考へて計畫を立てゝ行かなければ、其の時に於て臍をかむやうな事が出來はせんかといふ事を心配するものであります。

尙ほ最近の出來事に就て考へますれば、漢口の事件、それから九江事件其の他色々ありますが、事件が起るといふと日本の商工業者は洵に脅へる西洋人も決してその事件の發生した時には强い事は無い樣だけれども、苟も此の支那內地に於て仕事をし海外に出て仕事をする樣なものは少しは危險を冒して差支へ無いといふやうな魂膽か坐つて居らなければ出來ぬと思ひます、例へば漢口で事件が起きた、サツサと日本迄逃げて來る、何故漢口に起つたならば九江附近に止まつて監視して居て、濟んだら早く歸らないか。若しこゝでいかなければ上海まで來て待つて居ればよい、何も日本まで歸る必要はない。或は宜昌附近の人は漢口まで來て待つて居る、何も上海迄歸る必要はない。若し濟んだら直ぐもとへ歸る、こういふ風にして仕事をしなければいかんと思ふにも拘らずサツサと引上げてしまふ、あれぢや、折角從來作つた所の地盤を段々失ふの外はない狀況にある。「政府は須らく之に對して適當の措置あらんことを望む」な

どの電報を幾つ打つたつて何にもなりはしない。あれはたゞ責任を人に嫁する文句で何もなりやしない。「又云つて來たな位な」事を當局者は云つて居るだろふ。それでもそれをいはんと面目が立たんやうに心得て、どこの商工會議所よりとか、どこの商工會議所會頭よりとかいふ名目で頗る抽象的な文句をならべて來る、こんな事は何にもなりやしません。そんなことを考へるのは大體大いなる誤りで、海外へ行つて仕事をする者は、やはり虎穴に入らずんば虎兒を獲ずといふ考へを有たなければいかん。それは軍人とは違ふ、と仰しやるかも知れんが、軍人だから命を棄てる、外の者なら命を捨てないでもものが出來るか、そん譯のものでない。やはりどこへ行つても何の職業でも命を的にする位でなければ本當の事は出來んのが原則だ。そんな事で脅へる位なら初めから行かないがよいといふ事に歸着するだらうと思ふ。

要するに私は、在支居留民の內にはえらい强がりの事をいつて居る者が段々あるけれども例の勇みはだ的の人間のやうなものでいれずみだけはして居るけれども、實は喧嘩になると案外弱い、かういふ者が段々ありはしないかといふ事を常に彼方で感ぜざるを得なかつたのであります。又彼方へ視察に行く人等を見ても日本人の視察團即ち實業家とか視察團とか云つて彼方へやつて來られます其の人等は皆何と云ふ事は無い殆ど一樣なプロダラムで大概、朝鮮鐵道を通つて安奉線を通つて京奉線を通つて天津北平に行く。それから平漢線で漢口へ向ひ、上海へ行つて、ずつと長崎へ歸つて來ると云ふ順路或は反對に行く位で、未だ曾て平漢線から百五十一哩しかない山西の大原といふ所までも行つた人もきかない。こゝへ行つた日本人は今では役人か新聞記者だけで、あとは實業視察團などは行つた事は殆どない、みんなよい鐵道のへりか、又は川邊か海邊に行くのみである。さうしてなるべく日本の宿屋のある所ばかりをねらつてる。それぢや本當の事はわからない。日本の雜貨や綿糸布を澤山使用して居る所はどこであるかといふと、上海や天津のやうなハイカラな所よりも、もつと支那の奥地であつて、即ち日本の品は多くは皆支那の田舍に行くのです。田舍に得意が多い。だから田舍を視察する必要が大にあるのであります。或は津浦線を通つて見ても蚌蜱なんといふやうな所は今より二十年前迄は十數戸の一寒村であつたが、今や數萬の戸數ど十數萬の人口があるといふやうな新市街も出來てをる、或は上海と南京の間に無錫といふやうな新工業都市が出來て居るのに、こんな所は見ないで濟南を見て、後は孔子樣の廟を拜んで直ぐ南京まで行つて、南京で明の太宗のお墓へ

行つて古瓦の一つでも拾つて蘇州へ行つて、寒山寺を見て上海へ行く、上海で支那料理のうまいものでも食べて杭州へ行つて、西湖といふ景色のよき湖を見て、ずつと歸つてしまふ。それでは支那の視察ぢやない、之は私が惡口をいふ樣であるが、之が實際なのであるから仕方が無いさうして支那通になつて歸つて來る。洵に私等は遺憾に思つて居ります。又其の服裝たるや外國人と比べて非常に遜色がある。外國人の本當に支那を視察に來る人は、ずつと雨がふつても差支へ無いやうなレインコートかマントを着、或はゲートルをはいて、山野を跋渉出來るやうな赤革の靴をはいて居る。日本人はエナメルの靴をはいてゐる。エナメルの靴では山野の跋渉は出來ぬ。かういふやうな狀態であるといふ事は私は甚だ遺憾とした一人であります。北平で數日間見物して昔の清朝の廣大なる建物を見たり何かする事に比べて、もふ百哩向ふへ行つて蒙古の入口たる張家口へ行つて見る、それからもう百哩行くと大同に行ける。こゝには石炭も澤山あるし天然の木炭もあれば或は革の製造所もある。又百二三十哩行くと包頭、之は蒙古の西の入口で新疆、青海或は甘肅方面から無數の獸皮、羊毛が這入つて來る。外蒙の方から駱駝毛の這入つて來る所の集散地であります。かういふ所へ一つも行つて見ない。さうして皆北平から平漢線で漢口へ行つて、これから四川の方、所謂長江を遡つて四川省に入り其の上流千何百哩を尋ねて行く人は極めて稀である。

さて、かくの如く多くの視察者の見る所、或は又視察者が歸つて來て皆いふ所を聞くと、支那はどうも年々麻の如く紊れて行くのである。いつになつたらば平和になるのかわからん。平和にならなければ仕事は出來ないといひますが、果してさうであるが。平和にならなくても所謂、雨の降つて居る時でも、雨のまあひを見て、雲の行方を見て、飛んで行くやうに、間あひ〳〵を見て仕事をしなければ、所謂ハイカラの言葉でいへばデリケートな點を掴まへて商賣をしなければならぬ。支那はいつまでたつて、平和になるを待つ要はない。日本人は割合に健忘症で何でも人の事をえらい氣に病んだりするが自分の事は忘れてしまふ。顧みれば我國の維新の革命後、憲法の發布されたのは明治二十二年二月十一日ぢやないか。二十二年後に至つて漸く小さな面積の我國が落付たといつてもよい。然るに我國の二十六倍半もある而も交通不便なる所の尨大なる領土、而も民國革命以來十八九年しか經たない今日である、始終亂れてばかり居て怪しからん事である、と云つてさがめる方が實は無理である。もう少し時日をかさなくては

新しき支那が建設せられて落付くものでないと見るのが本當であると思ふ

而して此の見地から常に所謂デリケートな點を掴へて對支商工業を營まねばならぬが故にこれが爲め我々は支那の事情を刻々に研究をして行かなければならないといふことに歸着するのであります。

尙終りに一言したきは國民黨を背景とする所の新しき南京政府は、之を從來の變化多き軍閥政府に比するに、夫の孫文の唱ひたる三民主義き信仰して着々組織的に萬般の施設を進めつゝあるを以て見れば、國民政府なるものは時に内訌はあるべきも先づ以て、當分の間繼續性を有しあるものと見て誤りなきものと思ふと同時に從來我官民共が久しく北平を中心としてのみ諸般の研究調査をなしありしものが今後は南京を中心とする其研究調査をも進める事に大なる着意を要すると思ふのである。

第二　日華親善に關し

前既に述べました通り

我が國民は過去二三十年間婦女子に至る迄、支那國民を劣等視して、彼等は弱い奴である、賤い奴である、國家的觀念のない奴である。金錢萬能主義で金の外何物も認めて居らぬなどゝ、無暗にいやしめ特に夫の支那國より選拔せられて我國に留學せる學生等に對しても、侮蔑的態度を以て遇したる事が大にしては對支政策、小にしては對支個人策を誤らしめ、遂に兩國人間に段々と深い溝が築かれて來たのであると思ふのである。然る處昨今に至つて我が國民も大に覺醒する所があつて、人每に中日共存共榮を叫ぶ樣になつた事は洵に喜ぶべき現象であるが、支那國民の一部の人は、曰く日本人は今や頻りに日支親善中日共存共榮を叫ぶのであるが、我等中國人の如き自給自足の出來る國民には其の必要を認めぬ。うつかりして居ると朝鮮の二の舞を喰ふてはならぬなどゝ警句を發するものある事を耳にするが、何故如斯事を云はしむるに至つたかと云ふに、最近に至る迄兎角其の仕向方に不親切な點があり、且つ時には其の間若干の野心を抱藏しあるが如く疑はれる樣な下手な事をした時代もあつたからであると思ふ。

又日本人の支那に入込み居るものゝなし居る處を見るに、十のものは八九迄も之が利益を獲得する氣になつて彼等に對する利益の分配は甚だ少きやうのやり方であるが之は甚だ不都合であると思ふ。元來人の國に入つて仕事をなすに當り、少し遠慮がなくてはならぬ日本人は實に

支那に於ては、不遠慮極まる樣に見受らるゝ我輩の考へでは、支那に於て支那に產する品物に付て商賣をするならば、支那人に六分、日本人は四分利益を得ればよい位の心持で行かねばならぬと思ふ。而して實に支那は廣いのであるから、其數量は何でも夥しい數に上るのであつて、其の數量の上に付て確實なる澤山の利益を積むと云ふ覺悟が心要であると思ふ。又日本にて產する物產或は、加工した物品を支那に持ち往きて商賣をなすならば、之は當然前と反對に日本人に六分、支那人に四分の利益を頒つと云ふ樣なやり方で、所謂相互に麥飯主義で行つたならば、排日など受ける譯は此の方面からは絕對に起らないと思ふのである。又將來我が人口が年々增加するに從つて、內外各方面に對し逐次集團的移住をなすの外國內に於ては、工業立國の政策を採らねばならぬ事は自然の成行であるが故に、今後中日親善の實行に對しては先づ以て兩國の經濟提携を實現せねばならぬと思ふのである。

之を要するに帝國民は將來支那國民と親密なる連繫を保持し、誠意を以て彼等を指導し、東洋の保全を計るにあらざれば從來の如き若干にても野心を抱藏する如く疑はるゝ樣な事は絕對に之を遊くると同時に、眞に中日親善の根本的解決をなす爲には如何なる手段も亦若干の損失をも之を忍ぶの斷あるを要すべきである。

第三　日華兩國の共存共榮を論して
兩國の人士に望む

過去に於ては種々なる歷史上の關係と支那國民に對する日本國民の仕向け方に誤解及不親切なる點あり、且つ時には若干の野心を抱藏せられたる如く思はれた事もあり、自然排日的氣勢が支那國民に高まり來つた事は甚だ遺憾とする所であるが、支那國民としても克く最近三十年間に於て日本國は、東洋否支那國の爲め如何なる仕事をしたかに就て冷靜なる頭を以て公平に考へて見て貰ひたい。

夫の日露戰爭により日本が、露國の勢力を滿洲より驅逐したと云ふ事が支那國に對し、如何なる功績があつたか、若し萬一之を驅逐しなかつたなれば、如何なる結果を支那國に及ぼしたであらうか、又最近の世界大戰に關聯して日獨戰となり、獨國の勢力を山東省より驅逐したと云ふ事が、支那國に對し如何なる功績があつたが、若し萬一之を驅逐しなかつたならば如何な

る結果を持ち來したであらうか、其他支那國に對し歐米各國が種々なる難題を持ちかけた際に、日本が居らなかつたならば如何なる結果を結んだであらうかを仔細に考へて見たならば、日本が支那の爲に盡したる事も亦大なるものあるを知るであらう。

現下世界に於ける爭覇の戰場は、過去數世紀間に亘り開發せられ盡したる歐洲にあらずして、東洋と南洋及濠洲と南米と南阿にあるは爭ふべからざる事實である。歐米人は今や世界交通の衝に當れる東洋に先づ其の欲望を充さんと企圖しあるは何人も首肯する所であらう。然り而して東洋の富源は元東洋人の爲めに與へられた天與の賜にして、之が開發は東洋人自ら之をなすを本則とすべきである。

然るを從來支那國民の爲す所を見るに、唯に個人的眼前の小利益に浚頭し、甘んじて西洋人に左右せられあるもの多き感あるは誠に慨嘆すべきではないか、日本は支那よりも西洋文明を輸入する事若干早かりし爲め、凡ての科學は慥に支那より優り、且つ當今各方面に於て敢て西洋人に劣るものではない。然るを同種同文人種にて而も隣接せる日本と提携せずして遠き西洋人に依賴せんとするものあるは、誤れるの甚だしきものではなからうか。

我等兩國民は大に協力一致以て東洋の平和を確保せなくてはならぬと思ふのである。今や日本は支那に對し決して領土的野心を有するものでない、實に共存共榮を希ふものであることは、疑に千九百二十一年の華府會議に於ける我が加藤全權の聲明が遺憾なく之を物語つて居るのである。要するに支那開發の爲には同國は是非日本に信賴すべきであつて、日本も亦棋負せずに懇ろに指導すべきであらうと思ふ。

次に兩國の關係を考へて見るに、日本は恰も支那と云ふ大なる物持の玄關番をして居る樣な形であつて、他處の人が此の玄關番に何も答ふる所なく矢鱈に此の邸宅に入る事は出來ない。強て侵入せんとせば玄關番は腕力を以てでも擊退して、邸宅を防護せなければならぬ。而して此の玄關番は相當に腕節も強いのであるから、他處の者共は之を度外視して猥りに邸宅内に侵入する事が出來ない。縱令二三連合して來ても、之を相手にする位の力もあり、又其術も知つて居るから到底此の玄關番が居つては、此物持の邸宅を侵す事が出來ないと云ふ樣な譯で、往々列國中に色々な口實を竝べて、此の玄關番たる日本を中傷して支那と仲割をさせ樣と思ふて居る向もある樣だ。斯く考へて見たならば日本の存在は正に支那の存立上必要缺くべからざる

譯であつて、日本なければ支那は直に列國より侵さるゝに至るべしと云ふても敢て過言ではないから、日本に對し支那は極めて親善の間柄でなければならぬことは當然である。又支那も日本に對しては其必要なる食料並に各種工業原料の供給をなすことは亦當然の義務であらねばならぬ。此等の關係より中日兩國は經濟上から云ふても、唇齒輔車の間柄であつて眞に東洋の平和を確保せんとするには、兩國民が誠意を以て共存共榮の實を擧げなくてはならんと思ふ。

第四　日華親善の實行手段

健全なる支那政府を擁立し若くは有爲の人物を擁護して我對支政策の實行に資し之により日支親善を圖るは勿論必要であつて、吾人は帝國の爲大いに之に努力すべきである、けれども動搖極りなき支那の現狀に於ては、假に當時の政府が親日派なりとするも之により永く我對支策を實行せんとするは至難である。又人物を擁護して我對支政策に資せんとしても人には盛衰あり、其境遇に變化あり、又死生の計るべからざるありて之にのみ信賴すること亦得策でない、嘗て我が國が張之洞、慶親王、段祺瑞若くは張作霖等を擁護して事を圖らんとせしも、或は物故し、或は權勢を失ひ、或は變心して其目的を達する事能はざりしは尙吾人の記憶に新なる所である。

故に徒らに政府の擁立人物の擁護にのみ偏するは安全の政策でない、宜しく一方に於て博く支那官民、就中民間の諒解を得ることを努め以て對日親善の輿論を喚起すること極めて必要であると信ずるものである。特に最近に於ける排日騷擾の狀況を觀察して益々其然るを思はしむるものである。

而して支那官民就中民間の諒解を得るには、今日まで彼等間に鬱積しある排日の氣勢を緩和するにあるを以て、先づ今日迄支那官民の惡感を懷きし諸種の點に改善を加へ、之を排除して好感を持たしむる如く、我より進んで其手段を講ずるを必要とするのである。然る時は彼等の意思を漸次融和して、自づから日支親善の必要を諒解するに至るであらふ既に諒解して相互の親善緒に就くに至つたならば、茲に輿論を喚起して眞に兩國の親善を見る譯となるであらふ。而して其實行手段として採るべきもの多々あらんも、今其主要なるものに就て述べて見れば概ね、左の如きものであるまいか。

（イ）對支政策實行の統一

對支政策の實行手段を講ずるの第一着は其實行の統一にあると思ふのであるが、夫の廣大なる支那各地に駐在する、文武官並に居留民を統一して、一致的行動を取らしむるは困難である。之れ即ち從來之を各地駐在者の任意に委し、其監督指導も亦之に伴はざりし所以であらふ、如之從來對支政策は其聲の大なるに比して一般に重要視せざるのみならず、日支の關係は日に月に憎惡に向ひつゝあつたことは既に周知の事實であつて從來の弊風を一洗し統一的に對支政策の實行を監督指導するのでなければ、益々相互の關係を險惡に陷らしむるの恐あると同時に英米獨人等に常に機先を制せられ若くは彼等に漁夫の利を占められ我對支發展に障害を受くること少くない事を憂ふるものである。

目下支那國には軍部側にて、北は東三省より南は廣東に至る間に各重要地に、夫々特務機關を配置せらるゝ外、天津には駐屯軍あり、又外交系にては公使の外、各地に領事あり、其他主要なる都市には多數の居留邦人あり、此等を統一して一致的行動を取らしむるは決して容易の業でない、けれども而も對支政策上、各自の專擅に委する事の出來ないものあるから、此對支政策に對する一般的指導要領を査定して、之により其の統一を圖り以て、日支親善の實現に努めしむる事極めて必要であると思ふ、而して該要領による監督指導法は中央部に於ては、外務省と陸海軍其他との連絡を親密にして命令の統一を圖り、出先にある軍人は其高級古參者に於て、其他の文官及居留民は領事若くは公使館參事官に於て監督指導の任に當るを本則とすべく、尙公使館員領事軍人等の一地にある者は勿論、各地に駐在する者も亦相互の連繫を一層密接にして以て意思を疏通すべく絶へず相互情報の交換を爲し、之により全般の關係を明かにし、統一的實行の實現を容易ならしむるを要すると同時に各地の駐在者は成るべく、互に往來して情報を交換し且每年少くも一回位最寄の地に會合して業務の打合を爲すを要すべきである。

（ロ）日本人間の交際を一層具體的ならしむべし。

吾人は常に日本人の交際は職務、若くは同業の關係に止り實業家、外交家、軍人若くは教育家、技術家、各々其の城壁内に工交際するは擧國一致の精神を養ひ、若くは相互智識の交換上頗る不利なるを慨嘆して居つたが、日支の交際も亦之に類する感がある、此の如く日支

官憲者のみ、日支軍人のみ、日支外交官のみ等の交際は職務の關係上固より必要ではあるが、場合の許す限り否な成るべく時機を設けて一地の軍人、外交官、其他の文官、實業家、名望家、資產家、政治家及新聞記者等有らゆる方面の官民に交際して之と親睦を圖り、相互の意思を疏通して其諒解を求むるは、之れ日支親善を圖るの第一楷梯ではなからふか、日支親善は軍人或は外交官のみの諒解を以て之を濟すこと能はざるは勿論であつて、必ずや各種方面の官民の諒解を求め、其同情の後援により日支親善の輿論を喚起するのでなければ、恐らくは之が成効を期することと出來ぬと思ふ。故に在支官民は其軍人たると、外交官たると、實業家たるこ、技術家たると、教育家たるとを問はず勉めて廣い範圍に亘る交際を求めて各種の官民を知ると同時に自己を知らしめ以て之により日支親善の宣傳を爲すは之其交際をして具體的ならしむる所以ではなからふか。

（八）白人等を向に廻して我不利を醸さしめざるを要す

在支白人等の數は決して尠しとせない而も此等の總ては吾人と同じく支那に利害の衝突するは避け難き所である。然れども此關係を念頭に置き、常に睥睨して彼等こ交際するを逃避するは、是れ國際の條理でないと思ふ。白人の排日に加擔する者は洵に惡むべきであるが、之に反抗して疾視すれば、益々其氣勢を挑撥して反て我不利益を倍徒するに至るであらふ。故に法師を憎て袈裟に及ぼすの狹量を一掃して、成るべく彼等を向に廻さゞるこゝを勉むると同時に、假令向に廻りたる者も亦成るべく之を緩和して我不利を少なからしむる如く操縱するは　之れ交際の妙諦である、各國駐在外交官が日夜交際に勉むるも亦之が爲であらふ、而して此等外交官の手腕如何は往々其派遣國の國策に影響する事大なるものであつて、決して忽にする事の出來ぬ譯である。要するに數十年間在支せる白人に對しては成るべく博く、且親密に交際して之を向に廻さず以て、日支親善の障碍たらしめざる如く努むる事は極めて肝要の事であると思ふ。

以上の外吾人は國際的交際に公私の區別を立て、公務上要すれば激論するも可なるも、之が解決を見たる後は釋然こして神氣を新にして、舊來の親密なる交際を續行するを要すべきである。殊に人を猜疑して交際をなさゞるが如き所爲は、最も戒むべきである。例へば彼排日の疑ありこして交際せさるが如き是であつて、斯くすれば其人實際排日でなくとも反動的に排日に加擔

する樣になる事があるが如きである。

（二）重要なる都市に宣傳機關を設置するを要す

歐洲大戰に於て歐米各國は世界各地に宣傳機關を配置し、以て自國の利益を擁護し敵國の不利を指摘して多大の効果を收めたる事は、世人の周知せる事實にして今更喋々を要せず排日勃發に當り世人動もすれば在支那我官憲の行爲に付批難を試みる者あるも、吾人は之を從來の對支政策の弊習に歸し敢て現在の官憲のみを責めるものではない、唯特に遺憾と思ふのは宣傳機關の今尙備はりあらざる事である、而して其排日の機會に會ふや各地の支那紙及英米紙は盛に日本に對し惡評暴論を爲し盛に排日の氣勢を煽るも、之に應酬し警告し或は彼等の誤解を辯じ或は我主義を宣明する等の機關を充分に備へざるを以て恰も我に飛行機なくして敵の飛行機と戰ふが如く、常に手を拱して彼等の跳梁暴横に委ねつゝありしは甚だ遺憾とするのみならず事情に通ぜざる者は此等の惡評暴論を事實の如く過信して排日の氣勢を增長深刻ならしめ、博く毒手を伸ばさしめたるは疑を容れざる所であると思ふ。

故に此等の爲め成るべく速かに宣傳機關を主要なる都市に設置するを必要となすべく而して此機關の設置は啻に排日の爲のみでなく、平素に於ける日支親善の宣傳にも亦必要あるは論を俟たないのである、故に此際北平、天津、濟南、漢口及上海廣東等に有力なる英漢の兩新聞を發刊するを要すると思ふ、其他宣傳は單に新聞雜誌のみに依賴することなく各地の居留民は機會を得る毎に自國々人の利益を圖るべく宣傳に努むべきは勿論である。

（ホ）排日の氣勢を緩和するには內外邦人の協力を要す

日支兩國間の國際問題を揭げ正々堂々之を論し其曲直を判別する等は固より可なり、否なる之を努めなければならぬ、然れども其歸着する所は彼等を疾視罵倒するのでなくして彼等に諒解を與へ之を會得せしむるが如く懇切に善導啓發するにある譯である、然るに事此に出てずして多くは罵言嘲弄的口調を以て皮肉に彼等の弱點缺點を指摘し、或は政爭の內幕を暴露し、或は人身攻擊を爲す等國際的道義に反し、排日の氣勢を刺戟興奮せしむるは洵に遺憾とする所である、一方に日支親善を高唱しながら他方に於て反て之を傷害するの言論を爲すは思ひ到らざるの不一致と云はねばならぬ、內外朝野の官民及操觚者等に至るまで其言動を愼み、日支親善の一致的善導啓發に力を用ゆるが如く、邦人の輿論を喚起すること極めて必要

であると信ずるのである、嘗て歸米の途にある前駐支米國公使「ラインシュ」氏が東京行汽車中に於て我が新聞記者の對支問題に答ふるに支那人の美點のみを擧げたるに見るも思半に過ぐるものありと思ふのである、其他在日本支那留學生の取扱に改善を加へ好感を以て業を終へ歸らしむることは最も手近なる一つの緩和策である、之が爲には文部省内務省及警察署との連繫を取り且各學校生に戒告する等の手段を講ずれば容易に改善し得る事を思ふのである。

（へ）支那に於ける利源の開發及び商取引等は最も穩健なる手段に依り利益の壟斷を戒むるを要す。

支那に於ける我經濟的の發展するこ否こは我が國の命脈に關するは今更喋々を要する迄もない、又其貿易上より考へて見るならば以前には米國が第一華客で支那が第二華客で南洋が第三華客であつたが、歐洲大戰以來は支那は米國に勝つ樣になつた、即ち今や支那は我が第一の華客であつて其富源を開發し原料を得て之を加工して返送するには地理上極めて便宜の國である、況んや將來はどふしても食糧品も之を支那に仰ぐの必要あるに於てをやである。

且つ夫れ我國の政策上支那に對し領土的野心を有せざる事は既に述べたる如く華府會議に於て我が加藤全權が遺憾なく其間の消息を述べられてあるから、吾人は申す迄もなく今後日支親善共存共榮を標榜して經濟的發展を期するにあるのみである、而して支那人の感想如何をうかがふて見るに、排日騷擾に刺激せられたること支那に於ける產業の勃興と其保護政策とにより其起業熱各所に起り我起業に對して、漸次警戒を加ふるに至りたるが故に將來支那に於て經濟的發展をなすには、彼等の排日氣勢を緩和して好感を以て迎へちるゝが如く我より仕向け以て我國必須の需用を充さなければならぬのである、之が爲狡猾なる手段を弄し若くは彼等の利益を壟斷するが如き惡弊を一掃し起業は成るべく日支合辦法に依る如くし、且つ其利益の配當を相互均等ならしむる如く努め自分も利すれば彼にも利せしめ、以て所謂日支共存主義を發揮し事業の發展に伴ひ我恩澤に浴し我を德とするの平和親愛的精神を彼等に徹底せしむるを要すべく、此の如くして事業を進むるならば我が經濟的發展は期して待ち得る事と思はるゝのである、近時我實業家は漸次に此等の點に着目するものあるに至りしは、洵に喜ぶべき現象であつて此點を對支實業家に充分會得徹底せしめる事が大いに必要なのであ

る、殊に將來英米獨佛等が支那に於て我と商權を爭ふ事激甚を加ふるに從つて、從來往々見聞せるが如き我利的手段にては到底彼等に優勝の地位を占むる事は不可能であらうと思はれるのである。

（ト） 我が有力なる實業家或は會社を督勵して着々將來の爲事業の根據地を確立するを要す。

吾人は帝國の存立上將來支那に於ける經濟戰に勝利を獲得せなければならぬ事は已に再三述ぶる所であるが、其將來發展すべき方面は北に於ては北支那及滿蒙であつて之が爲には南滿を根據として北進並に西進し、中央に於ては青島地方及海洲地方を根據として黃河の流域に沿ひて西進し、同時に從來多大の努力を拂はれつゝある上海地方を根據地として揚子江の流域に遡り、尙南部に於ては臺灣を根據として福建地方並に廣東地方に向ひて各國と商權を爭ふべきであると思ふ。

今や支那沿海に於ける經濟的事業は殆んど盡きんとして居るので之より奥地に進入して大々的開發を計るべき時期となつて居ることを知らねばならぬ、即ち吾人は從來の如く海邊や河邊や京奉、津浦、平漢鐵路にのみにへばりついて居つては最早大なる仕事や資源の開發をすることは出來ぬのである、少くも大原、西安、漢中等に事業の根據を作り以て交通網の開くを待つべきであると思ふ、換言せば前記の如き奥地の有力者に交際を求め合辦若くは低利貸借を以て資本を卸す事に着意せねばならぬ、此の如くして眞の國家的經濟事業は仕遂げらるゝのであつて、軈て之が亦知らず〳〵日支親善の實行手段となるのである。

（チ） 低利の特別資金を卸し中產以下の事業者を助けて利源の開發及び貿易發展に資せしむるを要す

英獨の商人等が東洋に於て今日まで經濟上の勢力を占めたるは低利資金の融通をしたのにある、詳言すれば我が起業家は資本の金利高きため、例へば利源を開發するも直ちに利益を見るにあらざれば收支償はず、或は販賣業者は物品と金と引替へるにあらざれば之を繼續し難き等對支經濟の發展上甚だ遺憾あるのみならず支那人との取引自然冷酷に傾き所謂日支親善を傷害すること尠なからざる樣に思はれる、然るに英獨の商人等は低利資金の融通に依り其收支を償ひ優に利益を見ることを得、例へば物品の販賣に於て普通英は三個月計算、獨は六個月計算なるがため此期限內に於て融通を爲し得るを以て取引を圓滑にし且つ漸次其の販

路を擴め次第に勢力を占め得るのである。而して支那及西伯利亞地方に於て英商か次第に獨商に壓せらるゝに至りしは英獨計算期日に長短の差ありし爲めらしいのである、此の如く高低の差ある資本を使用する我事業者と英獨事業者とは同等にその經營の出來ないのは當然であると思ふ、唯々地理的關係により我は彼に比し手近なるため運賃等に於て若干の割安を得るのみである、爰に我國が歐洲大戰間支那に向つて經濟上の大發展を爲し得たるは全く英獨等が戰爭のため一時事業を中止した爲めであつて、戰後彼等は着々大なる馬力をかけて事業界の復舊を企圖しある、現狀に於ては漸次我が對支經濟發展を壓せらるゝに至るであらう事は日々に目擊せらるゝ所である、但し戰後は歐米に於ても亦金利著しく騰貴したから今後は此點からは幾分か我が事業を容易ならしむべきであるか內地の物價就中工賃の割高等は輸出品取引者の爲めには苦痛であることは爭はれぬ事實である、以上の狀況により考ふるときは中產以下の事業者は從前と大差なき關係を以て對支事業を營まなければならぬ故に此儘に放置したならば英米獨の事業者に壓迫せらるべきは火を睹るより明かであると思ふ、而も支那に於ける利源の開發、貿易の進展は我國の命脈に關する國家的經濟事業であつて今後益々將來の發展に向つて企圖せなければならぬのであるから此際低利の特別資金を卸し中產以下の對支事業者を掩護して少くも英獨等の事業者と同樣の關係に於て經營をなし得るの便宜を與へ以て支那人との取引を圓滿にして彼等に好感を與へ、日支親善に資するの覺悟がなくてはならぬと思ふのである、而して將來に於ける我經濟界か恢復せば官民協力して壹億位の資金を之が爲めに融通することは敢て難事でないと信ずるものである、要は日支親善に立脚せる帝國の對支經濟發展のため官民一致して有力なる低利金融機關を設置するを急務と認めるものである。

(リ) 日英日米等の合辦事業を起し對支經濟關係を錯綜せしむるを要す

將來支那に於ける經濟戰に於て我國の企業が英米等のそれと衝突して紛擾を起すの憂なしとせず果して然りとせば、我國が着々日支親善の實を擧げ得るに至つたならば彼等の猜疑嫉妬の念を昂上すること今日の比にあらさるべく此等の關係を成るべく緩和し、對支政策の進行を容易にし且英米國等との國際問題を調和するためには我獨立企業、日支合辦企業を勵行すると同時に勉めて日米合辦或は日英合辦等の企業を起さしめ支那に於ける經濟關係を互に

錯綜せしめ相互牽制して排日を緩和するを要すると思ふ。

（ヌ）　對支文化事業

支那に於ける教育及び救濟事業亦英米佛等の宣教師に依つて先鞭を着けられ、支那内地至る所の主要都市に其の設備を見るに至つて居る、抑も教育及び救濟事業は啻に人材を教養し、傷病者を治療して博愛慈善の主義精神を徹底せしむるばかりでなく、之に依り地方の人心を收攬し其の信用を博し、延いては我意圖に合して行動し或は我を擁護するの親愛心を生ぜしめ自然に勢力を扶殖するため缺くべからざる事業である、之れ即ち日支親善の爲大に此等文化事業の達成に努力すべきであると思ふ。而して我對支文化事業の如きは創立の日尚淺く且つ之に配當する經費充分ならざるため現時に於ては米國の如き大規模の施設を、逐次怠ることなければ大いにその効果を認むるの時期に到着するであらう。

（ル）　農業牧畜の改良

日支親善の一事業としては農業牧畜の改良を計るは最も必要の件であらねばならぬ、即ち現時に於ける支那の農業と牧畜に改良を加へたならば從來よりも多くの收獲を得ること疑を

容れないのである。殊に我國の將來は食糧を支那に仰くことは止むを得ぬのであるから農業牧畜の改良は啻に親善を意味するばかりでなく亦我國家的事業として努めなければならぬ所のものである、之がためには先づ東三省奉天附近に於ても大企模に農事試驗所等を設立して、東三省の農民指導機關となすと同時に支那子弟を教育する農學校を各地に設くることも亦大に必要であつて日支親善の大なる媒介となり得ると思はるゝのである。（了）

附錄　最近支那時局經過の概要

（安直戰より黨軍の北伐達成迄）

鈴木一馬述

本題は民國元年の第一革命時期より說明するのが順序であるが、それは稍々繁雜であつて最近支那時局の經過を知らんとする者の爲めにあきが來るからして、茲には民國九年の安直戰爭から述ぶる事とするのを捷徑であると思ふ。

抑も安直戰爭の起原を尋ぬるに、當時安徽派の首領段祺瑞氏は、自分こそ朝には居らなかつたが、其部下の徐樹錚、李思浩、曾毓雋、朱深等か靳雲鵬の內閣に入り込みて、稍權勢を張加之其後河南督軍趙倜に代ふるに吳光新を以てせんとしたのが、遂に直隸派の怒を買ふ事となり、奉天派と連絡して安徽派の橫暴を懲さんと活動したのが基となりて、同年七月遂に安直戰爭を惹起するに至つたのである。かくして兩派の軍隊は直隸平野に於て砲火の間に見えたが、

安直戰の結果

奉天派は直派に對し好意的中立をなし、其結果同月中旬安徽派の敗戰となり、徐樹錚以下九名の安福派首領連は日本公使館に逃げ込み、茲に安徽派の沒落となつた。併し爾後奉直兩派の首領たる張作霖と曹錕の兩雄長く相駢ぴ立つこと能はず、遂に奉直戰を惹起せざれば止まざるの狀勢を呈するに至つた。蓋し奉派は安直戰に於て直派に對して後援した結果、其勢力は直隸平野は勿論、熱河、察哈爾、綏遠の三特別區、並に內外蒙古にも及ぶに至つたので、當時張作霖の勢力は旭日昇天の狀態を呈し、直派は之に制壓せられて將來中央政權を奉派に擅にせらるゝに至るべきを恐れ、民國拾年春より兩派間に漸く暗鬪を見るに至つたが、同年暮奉派の產婆役の下に梁士詒內閣の成立するや、直隸は之を默視する能はず、其驍將吳佩孚は十一年一月決然起つて梁內閣に反對を聲明したるを端緒として茲に愈々奉直兩派の明鬪となり、同年四月下旬兩派の軍は直隸平野に會戰するに至つたのであるが、其結果奉派は敗戰したるも辛じて山海關の防禦戰に於て、六月十一日の攻勢移轉功を奏し、奉派は四分、直派は六分の狀勢に行戻りたる結果を以て、一時武裝的平和の狀態となり、爾後直派の勢力旭日昇天と爲り、中央政權に干涉する事夥しく爲に、六月上旬大總統徐世昌氏の天津落となり、續いて強制による黎元洪氏の

第一次奉直戰爭と其結果反

直三角同盟の萌

復職となり、纔に一時を彌縫したが、是より鑄て反直熱は各方面に昂まり來り、同年秋の頃より孫、段、張の反直三角同盟が萌すに至つた。而して此間、曩に北京日本兵營に保護せられて居つた安徽派の要人等は盡く脫出して天津、又は上海に至り、活動を開始し、又北京の段祺瑞氏も直隸派の監視中にありたるに拘らず、巧に某日暗夜を利用して其邸宅より脫出して天津に落ち延び、益々反直熱の昂騰をなすべく努力したのであつたが、又も翌十二年六月十三日黎總統が直派の壓迫を受け、再び天津落を演ずるに至りたれば、此好機を捉へたる反直派は大に三角同盟の强固なる基礎を作るべく努力し、一方にて國會議員を買收して曹錕の大總統選擧を妨害した、之が爲に直派の爲せし曹錕大總統選擧の運動は九月上旬迄は全く成功する事が出來なかつたが直派は有ゆる手段を盡して運動費を作り、議員を買收して所謂賄選をなし其結果、十月上旬漸く選擧せらるゝに至つた。

直派の首領曹錕の大總統選擧

直派の橫暴より反直派の結束東蘇浙戰爭の原因

爾來直派は益々橫暴を極め漸次其地盤を擴張しつゝあつたが、天下の同情は愈々直隸派を去つて反直派に傾き、吳佩孚の勢力猛勢なりしに拘らず、張作霖は孫文、盧永祥等と氣脈を通じ共に段祺瑞氏を中心として益々反直の氣勢を擧げ、且つ大に軍備を整頓しつゝ時機の到るを待

蘇浙戰爭の結果

第二次奉直戰

北京のクーデター第二次奉直戰爭の結果

つて居たが、偶々民國十三年秋東部支那に於ける段派の重鎭たる浙江の盧永祥と直派の驍將齊燮元とは福建より江西を經て、浙江に入り來つた反直軍六千の武裝解除に付て葛藤を生じ、此事件が端なくも戰爭の導火索となり、蘇浙戰爭を惹起し、盧永祥は四面悉く直派の地盤たるにも關せず、敢然として江蘇軍に向つて攻勢作戰を企圖し、最初は大に勝目であつたが、河南方面よりの直軍の有力なる援兵が江蘇軍に加はるに及んで漸次不利の狀勢に陷り、加ふるに北方奉天軍の策應遲々たる爲盧永祥は遂に日本に亡命するの止むなきに至つた。後幾多の變遷を經て浙江は遂に福建より北上せる孫傳芳が漁夫の利を占むることゝなつたのであるが、北方に於ては九月中旬奉天軍は決然南下して、直軍に對して決戰を求め主力を京奉線上に集中し、一部を朝陽方面より南下せしめ、行く〳〵敵を擊破して山海關に於て兩軍の大激戰となりたるが、直軍は續々豫備軍を山海關の戰場につき込み、吳佩孚自ら陣頭に立つて將士を激勵奮鬪し、奉軍も亦大に奮鬪、正に豫備の盡きんとする頃、直軍の一方面に於て作戰を指揮し居たる馮玉祥は吳佩孚の山海關方面に出陣せる、不在に乘じて、部下軍隊を率ゐて北京に乘り込みクーデターを決行し、曹大總統を監禁して中央政府を乘り取つて奉軍に策應せしがば直軍は遂に敗戰に

段祺瑞の再起

張作霖の權勢と孫傳芳の蹶起

陷り、吳佩孚は勢窮りて施す策なく各所に轉々して遂に湖南の岳州に逃れ、同地に潛みて他日の機を待つの外なきに至つたのである。

是に於て張作霖及び馮玉祥の權勢は一時に振ふに至り、同時に反直派の三角同盟の首領等は天津に會合して段祺瑞氏を起たしめ、同氏は極めて愼重の態度を以て天下の輿望を擔ひつゝ、同年十一月北京に乘り込み、臨時執政として就任し、着々國政の改善に努力し、豫て佛蘭西と係爭中なりし金フラン問題をも解決して以て關稅特別會議の基礎を開き、進んで財政の整理に着手し、軈て國民會議の召集を企てゝ居つた。然るに當年變亂の殊勳者たる張作霖は爾來益々其勢力を擴張し、山東、安徽、江蘇迄其手を延ばし次で河南をも其勢力範圍に收めんとする希望を有するに至つたので、茲に忽ち全國に亘つて反張熱高まり、同時に張作霖と馮玉祥との間に阻隔を來すに至つたので、之を見たる段執政は頗る苦心を極め、有らゆる手段を盡して平和に解決せんとしたが、直派の殘將浙江の孫傳芳が十四年の秋蹶然起つて張作霖の懷刀たる江蘇の督辨楊宇霆の率ゐる奉軍に對し、攻勢に出て、行く〳〵奉軍の武裝を解除しつゝ之を北方に擊退して、徐州に進出するに及び、張作霖は山東の督辨張宗昌をして孫傳芳軍に當らしめ、續

張作霖の野望

奉軍の驍將郭松齡の反亂

郭松齡の沒落

李景林張宗昌の連合

いて之を後援する有力なる奉軍部隊を關内に集中し、機會之を許せば同時に馮軍をも討滅せんとの希望を有せしものゝ如くなりしが、孫軍が徐州以北に進出せざるを認むるに至りたる時、段執政は機敏に天下に對し和平命令を通電して、何れも之に服從せしめて一時小康を保ち得たるに偶々、十一月下旬突然欒州に在りし奉軍の驍將郭松齡は馮玉祥の使嗾によりて張作霖に向つて反旗を擧げ、破竹の勢を以て北進するに及び、奉軍は再び大恐慌を來したが在天津の李景林が敢然起つて馮軍に宣戰したる爲、郭軍は其後方連絡を遮斷せられ、補給意の如くならず、加之寒氣日增しに度を高め、防寒の準備整はず、其他諸種の事情を綜合して十二月下旬に於ける最後の決戰に遂に捕はれ奉天の露と消ゆるに至つた。

以上の如く郭軍は沒落し張氏は遂に最後の勝利を得たるも、一方李景林軍は馮軍の優勢なる兵力を以て壓迫せられ、一時止むなく天津を馮軍の奪取に委せて山東方面に退路を取り、張宗昌と連合し、爾來天津奪回の計畫に餘念なかりしが、十五年二月に至り連合軍は天津に向つて北進し、更に直隸派の諒解をも得て奉直兩軍相策應して馮軍を赤賊と稱し、之を擊滅すべく協同し、四月上旬天津を奪回し續て北京を攻略すべく各其軍を進めた、同時に馮玉祥は庫倫方面

馮玉祥の逃露

段執政の下野

張作霖吳佩孚の握手同盟

に向つて家族を擧げて逃れ、其部將鹿鐘麟は一旦北京に退き布陣せしも、大勢不利なるを知るに及んで、四月九日夜突然北京に第二のクーデターを實行し、段執政を監禁し、曹錕氏を釋放し、依て以て吳佩孚の歡心を買はんとせしも、段氏は是より先既に他に避難し、斯る手に乘るものにあらざれば、此計畫は失敗に終り、鹿鐘麟は遂に其軍を南口以西に退かしめ北京を明渡すことゝなり、段執政は再び其職を執るに至り、洽く天下に對し通電し、特に吳佩孚、張作霖閻錫山、孫傳芳の四氏に向け、將來に對する所見を求めたるに數日を經るも何等の返信なく、且つ吳佩孚が間接に又も北京のクーデターを行はんとする意圖あるを知りたる段執政は、四月二十日に辭職を聲明して側近者六七名と共に天津に去り、茲に無政府狀態を來たし、北京は正に混亂の巷と化せんとせしが、長老王士珍趙爾巽氏等の努力により辛ふじて市内の秩序が保たれ、次で顏氏の攝政内閣を以て前後策を確立せんとせしも意の如くならず、依つて珍しくも多年互に敵視したる張作霖、吳佩孚の兩氏は形式ながら兄弟分の契を結び奉直兩派協力して國民軍を討伐するに決し先づ南口附近を占領しありたる國民軍を擊退して之を西方に壓迫したが之より先西北國民軍の首領馮玉祥は前述の如くに天津を奪回せられてより其部下軍隊の技能豫期

馮玉祥の陰謀

廣東北伐軍の北進

吳佩孚の南下と敗殘

北方に於ける張作霖の獨り舞臺

に反したるのみならず前年來鬼角意に滿たざる事多きに氣を腐らし遂に其部將張之江及び鹿鐘麟に軍隊を委ね庫倫方面に逃れて次で露西亞に入つたのであるが彼が果して其後如何なる活動を露國にてなせしかは誰も充分之を明確に知るものなきも其行動はやがて廣東政府に反響して少くも廣東軍の北伐の動機を芽ざしたるにはあらざるか即ち廣東蔣介石の指揮する南軍は五月以來着々北伐の準備にとりかゝりつゝあつたが七月に入りてより湖南方面にて湖北軍と相對峙しありたる唐生智軍を援援して敵を敗りつゝ八月中旬湖南に進入して徐々に前進し其勢猛烈を極めたりし爲吳佩孚は止むなく北方の作戰を督する能はずして南下したが其時期已に遲く爲に湖南湖北の全軍を指揮して奮鬪したが武漢拙く汀泗橋の激戰に敗れて武漢の地に退き極力防戰せしも九月上旬北伐軍の巧妙なる作戰により遂に武漢の地を固守する能はずして遠く順次北方に退却したが之と前後して張作霖は安國軍總司令として北京に乘り込六月下旬自稱大元帥となりて、舊宮城に起臥し大に權勢を張つた。又此間孫傳芳の率ひる五省連合軍が九江南昌方面に出陣して、北伐軍を追擊したのであるが、其進出時期が稍遲延せし爲其効果著しからざるのみならず適々孫軍に油斷ありし爲、九江及南昌を敵に奪取せられ、續て不利の狀勢に陷り遂に江

孫傳芳軍の進出と失敗

南軍の有利なる作戰

南軍の南京占領と南京事件

西をも敵に委し、江蘇に退却するの止むなきに至り、同時に南方福建方面より北進せる何應欽軍は浙江を攻略して上海に迫り、加ふるに安徽の陳調元は南軍に寢返りして、安慶も亦南軍の手に歸するや引續き上海及南京を攻略せんと企圖して其作戰を進めたが之に對し、北方軍は奉天軍を主力として漸次南下し、遂に京漢線方面に在ては幸軍の先頭部隊は舊直隸殘黨靳雲鶚軍等の妨げあるに拘らず、黃河を渡りて鄭州を占領し、津浦線方面に在ては張宗昌の率ゆる山東軍を以て孫傳芳軍と代り、上海に進入して敵と對戰したが南軍は益々有利の作戰をなし、加ふるに北軍の上海にありし部將畢庶澄の南軍に降るあり、爲に上海は難なく南軍の有に歸し、山東軍の過半は退路を絕たれて武裝解除を餘儀なくせられ、遂に南京も亦二十四日山東軍の退却と共に南軍の占領する處となつたが、同時に秩序なき南軍の一部の爲日英米の領事館を襲撃せられ、各國居留民は掠奪の慘狀に陷り、之が爲遂に英米兩國の軍艦よりの南京市街の砲撃を見るに至つた事は對外問題に於て重大なる意義を相互間に認めらるゝ事となつたのである。尙河南方面に於ては曩に鄭州を占領せる奉軍の南下稍々進捗せしも、折から西方より其右側に進出し武漢軍に策應する馮玉祥軍あり、爲に鋭意南進する能はざるの狀況に至り、稍々躊躇しあり

馮軍の洛陽占領と吳佩孚の淺落

奉軍の退却

南軍の内訌

し間もなく武漢軍の北進となり、同時に豫定の如く馮軍の洛陽占領を實現するに至りたれば吳佩孚は遂に身の處置に苦み南陽方面に走り次て四川に入りたるものゝ如くである。而して奉軍は今や側背の危險を感ずると共に山西閻錫山の向背も亦懸念せられ、茲に河南より退却して保定附近に其主力を集結せざるを得ざるの狀況を呈するに至り、一方津浦方面にありては一時長江以北に進出せる南軍は孫軍の爲一時擊退せられたるも、間もなく再び準備を整へて五月中旬猛然として長江を渡り、山東軍及び孫軍を北方に擊退して浦口揚州等を占領し、續て敵を追擊して、蚌埠徐州及び海州等を占領し、尙進んで山東深く進入したるも、適々南軍に於て南京派と武漢派との内訌益々熾烈を極めて、七月上旬より暗鬪は正に明鬪に化するの狀況に及び、爲に蔣介石は鋭意其北進を決行する能はずして後退し、同時に武漢派と通じありと稱せらるゝ馮玉祥の態度も大に懸念せられ爲に今や張作霖に對し、妥協せんとの希望を有しありしも相互の條件相容れず、從つて暫くは武漢軍對南京軍對張作霖軍の三角關係の外馮軍閥軍が其間に介在する容となり、互に相牽制して一時小康を得たるの形であつたが、間もなく津浦線方面に在ては孫傳芳は蔣介石軍の弱點につけ込で鋭意南進を企て、蔣軍を南方に擊退して八月上旬再び長

孫傳芳軍の南進と蔣介石の下野

山西軍の討奉作戰の開始

江北岸に達し、南京に脅威を與へつゝあるに及び、四月中旬突然蔣介石の下野するありて一時南軍の大に混亂せる狀況に際せしかば、孫傳芳は益々其勢力を張つて斷然長江を渡りて、南京を占領せんと數方面より渡河作戰を企てたるも、渡河前後の準備周到ならざりし爲遂に南軍の爲其渡河部隊は擊滅せらるゝに及び、此間武漢南京兩派の妥協結合を見るに至りたれば、南軍は再び北伐を決行すべく渡河して其一部は孫軍に擊滅せられたるも、各方面より渡河せる部隊は遂に江北に進出して孫軍を追擊北進せり、而して當時の狀況に於ては此方面は最早餘り遠くは北進し得ざるものと觀察せられてあつた。又京漢線方面にありては、馮軍に對し奉軍が鋭意攻擊前進せんとして閻軍に對し共同作戰を迫りたるも、閻軍は直に奉軍の要求を容れず依然として山西モンロウ主義の上に立即して張作霖の意の如くならず、又張宗昌の率ゆる山東軍を以て東北方河南に進出せしめんと企圖しありたるも之とて思ふ如くならず、此間唐生智軍と馮軍との間は結合の狀態にありて、馮軍は依然として河南に占據しありて閻軍の後援として張作霖に對し、攻勢に出でんと企てつゝあつたが、九月中旬より山西軍徐々に對奉作戰の準備を整へ、十月上旬京漢線方面の商震軍先づ火蓋を切りて同方面に進出ありし奉軍を擊退して、遂に張家

山西軍の退却と涿洲守城軍の勇敢

口を占領し、更に京漢線方面にありては石家莊より北進したる山西軍は奉軍の戰備整はざるに乘じて猛烈に北進して一時保定近く迄の敵を壓迫して其第一期の作戰を終つて、奉軍の膽を寒からしめたのであつたが、驕て奉軍は其準備を整へてより、京綏京漢兩線共逐次其前面の敵を擊破して山西軍を山地に壓迫して其第一期の作戰を終つた樣であつた。其他十月下旬に於ては南京軍は武漢軍と會戰して遂に內訌を明鬪と化せしめ、爲に唐生智は遂に湖南に退却して南京軍に對せんとの決心を取りたるものゝ如くであつた。如斯して南方各方面共一時小鬪盛に營まれ益々黨軍の分裝を來すであらふと思はしめたが、唐生智は十月下旬遂に日本に亡命し、之と殆んど同時期に蔣介石は急に歸鄉して南方各派の結束を策するに至り、北方に於ては山西軍は漸次奉天軍の爲に壓迫せられて山西省內に退却せるも、獨り涿州にある守城軍は頑强に防戰して數回の攻擊を受るも屈せずしてよく防守し、又馮玉祥軍は十一月中旬には山東軍を擊攘し、其一部は山東省西南部に進入したる外、同下旬には主力を鄭州に集中して其大部をして京漢線の正面に向はしめ、一部を以て山西軍を援助せんとなしあるの狀況を呈するに至り、茲に蔣、馮、閻の三角同盟成立して北伐を斷行せんと企圖せらるゝ如く推測せらるゝに至つた。斯くて

蔣馮閻の三角同盟成立

廣東に於ける共產軍の暴動

涿洲山西守城軍の開城

馮軍は一時優勢にして直魯聯軍を北方に擊攘したが後再び直魯聯軍の爲に擊退せられ同軍は辛じて徐州を回復支持しありし所、十二月中旬何應欽軍の爲に攻擊せられ、又もや徐州は南軍の手に歸し同時馮軍の一部は續々山東西南部に進出して策動するものゝ如く、尙京漢線及び山西方面に於ては馮軍の主力及び閻軍は之に策應して逐次奉軍を攻擊するの擧に出づるらしく、奉軍の爲樂觀を容さざるの狀況にあつたのである。

又廣東に於ては十二月十一日突然共產軍の暴動により、一時廣東を占領して各所に放火掠奪をなして荒れ廻りたるも、忽ちにして反共產たる李福林、薛岳等の指揮する軍により共產軍を擊攘するに至りたるが、市街は死屍累々として慘狀目も當てられぬ狀態を呈し、共產黨約二千數百名の銃殺せらるゝありて殆んど共產黨を絕滅したる如き狀況であつた。斯くて涿州城に籠城せし山西軍は三ヶ月間に亘り頑强に奉軍に抵抗したが、城內人民の苦痛を見るに忍びずして一月中旬奉軍に降りて開城するに至つたが、山西軍は愈々益々其決心を固めて奉軍を北京より擊攘するに非れば平和の要求に應ぜずとの意氣を示し、馮軍も亦之に策應して逐次北方に進軍して彰德大名の線に進出したるが如くであつたが、唯此際に於て南方軍は尙內訌の爲銳意北伐

南軍の一致北伐斷行と開封の軍事會議

北軍不利の作戰と南軍の北進進出に濟南事件

山西軍の北京占領と奉軍の遂次退却

を遂行する能はざるのみか、一月十六日には湖南軍と武漢軍と遂に對戰するに至りたれば、如何に馮軍と閻軍とのみ連合作戰を進めても奉軍を直隷山東より驅逐する事は至難であると思はしめたが、南軍の各派は大勢に鑑みる處ありて一致北伐を斷行する事となり、二月中旬開封に蔣、馮、閻、の軍事會議開催となつたのである、斯くして此等連合軍は續いて北伐を斷行し先づ山東方面に對し、馮軍一部と南軍の一部とにて敵を北方に擊退しつゝ北進し、又京漢線方面にては馮軍と閻軍と協同して北進せしが北軍は各方面共不利の戰鬪をなしつゝ北方に退却し南軍は勢破竹の如く猛烈に北進し、遂に四月下旬其先頭軍を以て濟南を攻略して日本軍と衝突するに至り再び南京事件の二の舞を演じつゝ北進を決行し、津浦京漢線共に相策應して北進し六月上旬第一に山西軍を以て北京を占領し、奉天軍は遂次北方に向つて退却するに至り、直魯連軍も一時天津を固守せんと企圖せしも兵卒の戰意全くなきに至り、止むなく天津を撤退して欒河の線に退却するに至つたが之より先き、張作霖氏は六月五日朝北京より奉天に汽車にて歸還中反張軍隊の爲に爆彈を投ぜられ重傷を受け再起困難の狀態に陷り、遂に死去したので、此變事の爲東三省は首腦者を失ひ一時混亂の狀態に陷りたれば、此機を捉へたる南方派は遂次其軍

張作霖の歸奉と不慮の災害

國民政府の建設

重れて內訌

南北の討戰

共產軍の蜂起と將來

を直隷平野に進めて奉軍を關外に撤退せしめざれば止まざるの狀勢を示し、遂に南北妥協の形勢に導かれ茲に漸く形式的統一の形を取り得るに至つたのである。

爾來蔣介石氏の權勢旭日昇天の如く馮玉祥氏閻錫山氏其他の推戴により國民政府の首席委員として內外に對し國民革命の新宣言を發表して着々改善の實を擧ぐるに至りたれば東三省張學良氏も今や大勢に順應して遂に國民政府の指揮に服し茲に民國統一の狀態を見るに至りたれば列國も遂次國民政府を承認する事となりたるも內訌屢々起りて絕へず時には蔣氏をして下野の宣言をなさしめたる事ありたれども常に蔣氏の先制により其權勢を維持し來りて最近諸般の關係上其執政振稍專制と目せらるゝに至りたれば民國十八年以來馮玉祥氏及び閻錫山氏の結合となりて加ふるに河南雜色軍の之に加はるあり遂に十九年春以來南北兩軍の對戰を演ずるに至り北軍の形勢稍有利に發展せられありたるも同年八月中旬に於ては南軍稍其戰勢を恢復濟南を奪還して山西軍を擊退するの狀況と變したれば今後如何に進展すべきやは爾后の狀況に待たなければならぬ況んや南北對戰の此時機に於て中原地方及優勢なる共產軍其勢を逞ふし今や湖南、江西の兩省にて夫のソビエット政權が殆んど建設せられたるの狀態にあるは大局より打差して

南北兩軍の首腦者たるもの大に考慮をせなければならぬではなからふか。

333
19

昭和五年九月七日印刷
昭和五年九月十日發行

不許複製

（定價金參拾錢）

發行兼著者　神奈川縣鎌倉町大町百七十八　鈴木一馬

印刷者　大阪市北區東梅田町一〇　松田龜吉

印刷所　大阪市北區東梅田町一〇　松田印刷所　電話北五二九四番

發行所　大阪市西區西長堀北通一丁目十五　大阪實業協會內　中華事情研究會　電話新町（一一四九四番）（一一四九五番）

終